

区議会地方分権・本庁舎整備対策等特別委員会（5月27日開催）における主な意見

基本の方針 2 . 区民の安全・安心を支える防災拠点となる庁舎について

熊本を視察したが、データのクラウド化や電算センター化していたことでデータが生き残り、体育館で業務できる自治体もあった。いかに業務を別の場所でも継続できるのかといったことを考えているのか。

本庁舎と事務センターは専用線でつながれているが断線する可能性もあるため、今回、そうした場合にも最低限のデータを活用できるように本庁舎に最低限のスペースを確保することとしている。

本庁舎等の規模について

建設コストのほかに、集約することで減ずることとなるコストもある。そういったコストをトータルで出してもらわないと比較できない。集約することで、借り上げ費用がどれくらい削減できるのかわかる資料は出るのか。

第5回の事業計画の中でコストや工期を提示する予定であるが、今後、関連所管と調整し、提示できるものは提示していく。

規模の議論の中で、広場をなぜ議論しないのかという意見があった。どういった規模の広場が必要なのか提示するというところでよいか。

どのような広場の使い方を想定しているかの資料を示す。

本庁舎等の配置と形状（高さ等）について

検討委員会の議論がコアな議論に入りすぎているのではないか。配置や形状まで決めてしまったら、設計者を公募する時に困るのではないか。例えば、工期7年半が長いのか短いのか、負担軽減はどういった手法があるのか、などシンプルな内容の方が良いのではないか。コアな意見すべてを公募の要件に反映できない。

検討委員会に提示する配置イメージは議論しやすいように参考として提示するもので、広場の規模や機能、地表の緑化率などの要件を固めていくことが重要だと考えている。具体的な配置や形状はプロポーザルの中で設計者に提案していただくことになる。

事業計画について

豊島区や渋谷区のような税金をなるべく持ち出さない手法についても、検討委員会の中で議論してほしい。

熊本地震のこともあり、竣工が10年先で世田谷区は大丈夫なのか。居ながら工事で本当にいいのか。選択の幅を持たせるべきでないか。

工期の短縮については、再三ご指摘いただいた。優先順位が高い課題であると考えており、様々な工夫をしていきたい。

報告書について

検討委員会の最終の報告書は、両論併記でないと考えてよいのか。

区が考える必要不可欠な条件を整理し、検討委員会でも議論していただき、最終報告として提示してもらいたいと考えている。設計者に発注要件を示すことが重要であり、デザインは設計者の創意工夫にゆだねるべきだと考えている。配置と形状を検討委員会として選ぶわけではない。報告書を受けて、区として基本構想（素案）を示していく。

区民への周知について

本庁舎の整備そのものを区民が理解することが大切である。区民にわかりやすいまとめにすべき。

7 / 13には報告会を行うなど幅広く周知し、ご意見をいただきたいと考えている。

熊本地震でも明らかになったが、本庁舎が見えないインフラとして、どれだけ区民生活に関わっているのかを周知すべき。

本庁舎整備に関して区民の関心は高いが、1、2年後に建て替えると思っており、10年かかるなどということは知らない。工期などを含めた現在の議論の内容を区民に周知すべき。